

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	西日本工業大学
設置者名	学校法人西日本工業学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名		夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
				全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	総合システム工学科	機械工学系	夜・通信	2	7	18	27	13	
		電気情報工学系	夜・通信			12	21		
		土木工学系	夜・通信			12	21		
デザイン学部	建築学科		夜・通信	4		16	22		
	情報デザイン学科		夜・通信			14	20		
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www3.nishitech.ac.jp/student/index_1/syllabus

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	西日本工業大学
設置者名	学校法人西日本工業学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/outline/officer>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	九州工業大学大学院 工学研究院教授	R3. 4. 1～ R7. 3. 31	経営全般に対する チェック機能
非常勤	ビズ・コレジオ（株） 代表	H30. 4. 1～ R4. 3. 31	情報関係
非常勤	TOTO（株）常勤監査役	H30. 4. 1～ R4. 3. 31	経営全般に対する チェック機能
非常勤	弁護士	H30. 4. 1～ R4. 3. 31	経営全般に対する チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	西日本工業大学
設置者名	学校法人西日本工業学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス(授業計画)作成に当たり、「開講意義目的」「教育目標との対応」「授業計画」「授業の到達目標」「指導方法」「評価方法」等についてガイドラインを作成し、授業担当者にFD研修を通じて周知するとともに、学内で他教員による第三者確認を実施し、内容について確認しています。</p> <p>作成されたシラバスは、本学ホームページに公表し、学生には「学生生活のしおり」「学生便覧」で周知するとともに、履修する際に使用する学務システムでも情報を提供しています。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>作成ガイドライン： https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page5 シラバス：https://www3.nishitech.ac.jp/student/index_1/syllabus</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>アセスメントポリシーにおいて、ディプロマポリシーに沿って学修成果の把握・評価を行う目的と、評価基準は各授業の到達目標度合いに応じて成績評価する水準(秀(S)・優(A)・良(B)・可(C)・不可(D))を定めています。</p> <p>これを踏まえ、シラバスにおいて、授業到達目標と「試験」「小テスト」「レポート」「成果発表」「作品」「授業参加・態度」等の客観的な項目で評価することを定め、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位認定を行っています。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績を数値化し、学修成果を客観的に把握するGPA制度を採用しており、「(GP×単位数)の総和/履修登録単位数」により算出します。</p> <p>GPA算出方法により、各学生のGPAの数値を算出し、学務システムの学生個人ポータルにおいて、学生が学期・学年・通算毎に確認できるようにしています。</p> <p>なお、GPA制度・算出方法については、本学HPの「成績評価・履修単位等について」で、公表しています。</p> <p>成績の分布状況の把握については添付書類のとおり実施をしており、教員にもその結果を還元し今後の成績評価に役立てています。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www3.nishitech.ac.jp/student/index_1/seiseki</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p>ディプロマポリシーは、大学、学科毎に学生が身につけるべき資質・能力の目標を「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力」「実務型技術者としての実践力」それぞれについて定めています。卒業に必要な単位数及び必修科目を定め、卒業研究において、学生が身につけるべき資質・能力の全てを最終的に評価し、学位を授与します。</p> <p>なお、ディプロマポリシーは他のポリシーも含め、本学HPに公表しています。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www3.nishitech.ac.jp/examination/nyusi/policy

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	西日本工業大学
設置者名	学校法人西日本工業学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/corporation/financial
収支計算書 又は損益計算書	https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/corporation/financial
財産目録	https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/corporation/financial
事業報告書	https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/corporation/report
監事による 監査報告 (書)	https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/corporation/financial

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 事業計画)	対象年度: 平成26年度～令和3年度
公表方法: https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/corporation/plan	
中長期計画 (名称: 中期計画)	対象年度: 令和元年度～令和5年度
公表方法: https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/corporation/objectives	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学HPに公表 https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/evaluation

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: 本学HPに公表 https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/evaluation

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 : 工学部総合システム工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)
(概要) 本学の建学の理念、学部の目的に基づき、総合システム工学に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)
(概要) 所定のカリキュラムを履修し、「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力」「実務型技術者としての実践力」の資質・能力を身につけると共に、必要な単位を修めた学生に学士(工学)の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)
(概要) カリキュラムは、ディプロマポリシーに掲げる資質・能力などを修得させるために、「教養教育科目」「社会人基礎力養成科目」「専門総合教育科目」「学部共通科目・専門教育科目」を体系的に編成し、講義・演習・実験等を適切に組合せた授業を開講します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)
(概要) 総合システム工学科は、技術社会の中核を担う豊かな人間性を有する自立した技術者の育成を目指しています。この方針に基づき、「必要な基礎学力を有する人」「コミュニケーションをとりながら学ぶことに意欲を持つ人」「主体的な振る舞い、協働姿勢を訓練し、それらの能力を向上させるための努力を続けることができる人」「創意工夫の能力を向上させるための努力を続けることができる人」のような入学者を求めます。

学部等名 デザイン学部建築学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)
(概要) 本学の建学の理念、学部の目的に基づき、建築に関する理論及び技術を教授研究し、良好な社会環境・人間環境の形成に寄与し、幅広い教養と専門性を修得した人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)
(概要) 所定のカリキュラムを履修し、「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力」「実務型技術者としての実践力」の資質・能力を身につけると共に、必要な単位を修めた学生に学士(工学)の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)

<p>(概要)</p> <p>カリキュラムは、ディプロマポリシーに掲げる資質・能力などを修得させるために、「教養教育科目」「社会人基礎力養成科目」「専門総合教育科目」「学部共通科目・専門教育科目」を体系的に編成し、講義・演習・実験等を適切に組合せた授業を開講します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)</p>
<p>(概要)</p> <p>建築学は工学、技術から芸術、社会、文化に及ぶ幅広い分野にまたがる創造的、総合的の学問であり、職域も極めて多岐にわたっています。そのため建築学科では建築技術に関する基礎的専門知識の習得を基本に置きながら、卒業後、多方面で活躍できるよう幅広い教養と豊かな人間性と創造力を身につけた総合力のある人材を育成することを目的としています。この方針に基づき、「必要な基礎学力を有する人」「多くの人と協働して物事に取り組むことのできるコミュニケーション能力を持つ人」「多様な人々と協働しながら主体的に学習する意欲を持ち続けることができる人」「夢を持ち、それを実現する意欲と情熱を燃やし続けることができる人」のような入学者を求めます。</p>

<p>学部等名 デザイン学部情報デザイン学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の建学の理念、学部の目的に基づき、情報デザインに関する理論及び技術を教授研究し、良好な社会環境・人間環境の創造に寄与し、幅広い教養と専門性を修得した人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)</p>
<p>(概要)</p> <p>所定のカリキュラムを履修し、「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力」「実務型技術者としての実践力」の資質・能力を身につけると共に、必要な単位を修めた学生に学士(工学)の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)</p>
<p>(概要)</p> <p>カリキュラムは、ディプロマポリシーに掲げる資質・能力などを修得させるために、「教養教育科目」「社会人基礎力養成科目」「専門総合教育科目」「学部共通科目・専門教育科目」を体系的に編成し、講義・演習・実験等を適切に組合せた授業を開講します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page1)</p>
<p>(概要)</p> <p>情報デザイン学科は、豊かな人間性とデザインスキルを兼ね備えたデザイナーあるいは技術者の育成と輩出を通して、社会に広く貢献したいと考えています。この方針に基づき、「基礎学力を有する人」「自己のデザインや技能・技術によって社会へ貢献したいという意欲を持つ人」「他分野の人たちと協力してそれを実現する強い意思を持ち続けることができる人」「創造的に活用していくことに向けて努力を続けることができる人」のような入学者を求めます。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page2</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
工学部	—	18人	9人	2人	2人	0人	31人
デザイン学部	—	10人	10人	1人	0人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		61人					61人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学HPに公表 https://www3.nishitech.ac.jp/education/teachers/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
シラバス作成ガイドラインの見直し、シラバス第3者チェック、成績評価基準、教員相互による授業参観実施等に加え、各教員の教育の質向上を図るため、教員ごとのティーチング・ポートフォリオを作成し、シラバス作成方法・授業手法（アクティブラーニング・PBL等）の研修を毎年、定期的を実施しています。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	230人	228人	99.1%	932人	1053人	113.0%	6人	2人
デザイン学部	120人	144人	120.0%	488人	596人	122.1%	4人	4人
合計	350人	372人	106.3%	1,420人	1,649人	116.1%	10人	6人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	233人 (100%)	34人 (14.6%)	174人 (74.7%)	25人 (10.7%)
デザイン学部	120人 (100%)	5人 (4.2%)	106人 (88.3%)	9人 (7.5%)
合計	353人 (100%)	39人 (11.0%)	280人 (79.3%)	34人 (9.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
西日本工業大学大学院・九州工業大学大学院・熊本大学大学院・鳴門教育大学大学院 きんでん・九電工・日産自動車九州・西日本旅客鉄道・三井住友建設・九州旅客鉄道・苅田町役場				
(備考) 「その他」には、帰国15名(工学部13名・デザイン学部2名)、研究生1名(工学部1名)専修学校(工学部1名)就職未内定(工学部2名)を含む。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	254人 (100%)	206人 (81.1%)	13人 (5.1%)	20人 (7.9%)	15人 (5.9%)
デザイン学部	142人 (100%)	111人 (78.1%)	4人 (2.81%)	15人 (10.6%)	12人 (8.5%)
合計	396人 (100%)	317人 (80.1%)	17人 (4.3%)	35人 (8.8%)	27人 (6.8%)
(備考) 「その他」は、休学により修業年限4年に達していない学生である。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバス（授業計画）作成に当たり、「開講意義目的」「教育目標との対応」「授業計画」「授業の到達目標」「指導方法」「評価方法」等についてガイドラインを作成し、授業担当者にFD研修を通じて周知するとともに、学内で他教員による第三者確認を実施し、内容について確認しています。 作成されたシラバスは、本学ウェブサイトや履修する際に使用する学務システムにて情報を提供しています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) アセスメントポリシーにおいて、ディプロマポリシーに沿って学修成果の把握・評価を行う目的と、評価基準は各授業の到達目標度合いに応じて成績評価する水準（秀（S）・優（A）・良（B）・可（C）・不可（D））を定めています。 これを踏まえ、シラバスにおいて、授業到達目標と「試験」「小テスト」「レポート」「成果発表」「作品」「授業参加・態度」等の客観的な項目で評価することを定め、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位認定を行っています。 また、ディプロマポリシーは、大学、学科毎に学生が身につけるべき資質・能力の目標を「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力」「実務型技術者としての実践力」それぞれについて定めています。卒業に必要な単位数及び必修科目を定め、卒業研究において、学生が身につけるべき資質・能力の全てを最終的に評価し、学位を授与します。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	総合システム 工学科	124単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	半期24単位
デザイン学部	建築学科	124単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	半期24単位
	情報デザイン学科	124単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	半期24単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www3.nishitech.ac.jp/student/index_1/seiseki		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page4		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：本学HPに公表 https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/page7

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
【令和3年度以降入学者】					
工学部	総合システム 工学科	780,000円	200,000円	420,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 420,000円。
デザイン 学部	建築学科	780,000円	200,000円	420,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 420,000円。
	情報デザイン学科	780,000円	200,000円	420,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 420,000円。
【令和元年度以降入学者】					
工学部	総合システム 工学科	780,000円	200,000円	400,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 400,000円。
デザイン 学部	建築学科	780,000円	200,000円	400,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 400,000円。
	情報デザイン学科	780,000円	200,000円	400,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 400,000円。
【平成30年度以前入学者】					
工学部	総合システム 工学科	780,000円	200,000円	380,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 380,000円。
デザイン 学部	建築学科	780,000円	200,000円	380,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 380,000円。
	情報デザイン学科	780,000円	200,000円	380,000円	その他の費用は、教育充実費 (年間) 380,000円。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) <p>本学では、大学院進学希望や教職を目指している学生に対して、特別授業の実施や教員・先輩の経験談を中心とした「大学院進学と教職に関する特別講義」を年2回開催し、進路先毎の修学支援を実施しています。</p> <p>リメディアル教育として、大学入学後の基礎学力の確保や学習意欲の持続を図るため、本学では「入学前準備教育」を実施しています。原則全ての入試合格者を対象にして、「入学後に学ぶ内容の把握」「必要な基礎知識の確認」「高校までとは異なる主体的な学習方法」について理解を深め、学科・系に関連した課題の実施により、学習習慣を維持しながら入学後のスムーズな学びの準備を行っています。なお、基礎科目である「数学」「英語」については、入学後プレースメントテストを行い、習熟度別クラス編成を行っています。</p> <p>また、本学のガイダンス制度の一環として、在学生の学業や学生生活全般にわたる相談に応じるために、各教員が研究室に決まった時間に在室する「オフィスアワー」を設けています。講義での疑問点や関心のある問題への取り組み方など勉学に関することや、学生生活に関することなど相談事があれば、ガイダンス担当教員と直接話し合い、指導を受けることができます。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) <p>本学における就職指導の特徴は、学生一人一人に対する徹底した個人指導です。全学をあげて就職指導に取り組み、学生が申請する就職活動届けのデータを一元管理することによって、各自の希望や就職活動の状況を全て把握しています。このデータに基づき、就職指導委員や卒業研究担当教員、就職担当スタッフがきめ細やかな個別指導を行います。履歴書の書き方やエントリーシートの作成、自己アピールの方法など、企業訪問時また面接試験での心構えといった基本的な指導もマンツーマンで徹底指導しています。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、学生生活を送る上で修学上の問題や進路に関してはガイダンス担当教員などが相談窓口として対応していますが、家庭や友人関係、生活状況など様々な問題については、学生相談室の相談員が対応しています。

相談員は、学生の悩み事や相談内容について対応し、その解決のために適切なアドバイスを行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学 HP に公表

<https://www3.nishitech.ac.jp/guidance/public/public/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F140310110730
学校名	西日本工業大学
設置者名	学校法人西日本工業学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		224人	209人	227人
内 訳	第Ⅰ区分	130人	123人	
	第Ⅱ区分	50人	51人	
	第Ⅲ区分	44人	35人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				230人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)			
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況			
「警告」の区分に連続して該当			
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	
退学者をカウントしている。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	55人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	57人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。